

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

民主主義の危機を克服する 新しい政治の捉え方を考える

『演劇と民主主義―演劇学と政治学の
インタラクティブ』

平田栄一朗（文学部教授・北川千香子（商学部
准教授）ほか編
三栄社／3740円（2025年2月）



敵対勢力を“悪役”に見立て、扇情的なキャッチフレーズによって広く大衆の支持を得る政治手法を「劇場型政治」と呼ぶことがある。またカリスマ性のある政治家の名を冠して「○○劇場」などという言葉がしばしばマスメディアに登場する。本書は「演劇と民主主義はその本質において複雑に交錯している」という視座に立ち、11人の演劇学者と政治学者が演劇の仮構性・虚構性を生かした政治的発想の転換を模索。著者たちは日本を含む先進国で見られる外国人差別や移民・難民排斥の言説に危機感を覚え、民主主義への無力感と絶望が広まる世界に従来とは異なるアプローチで一石を投じる。

教職員執筆の新刊

●長倉大輔（経済学部教授）著

『将来予測と意思決定のための時系列分析入門―様々な時系列モデルによる予測方法からその評価方法まで』ソシム／3080円（2025年3月）

●井奥成彦（名誉教授）編著

『動物たちの江戸時代』

慶應義塾大学出版会／2640円（2025年4月）

●原大地（商学部教授）著

『「悪の花」の旅―ボードレールを読もう』

慶應義塾大学出版会／770円（2025年5月）

●小川原正道（法学部教授）著

『福沢諭吉と大名華族―「破壊」と「創造」の理論と実践』

ミネルヴァ書房／3850円（2025年5月）

●金柄徹（文学部教授）著

『韓国の若者と徴兵制』

慶應義塾大学出版会／770円（2025年6月）

●難波ちづる（経済学部教授）著

『日本人戦犯裁判とフランススインドシナ・サイゴン裁判・東京裁判をめぐる攻防』慶應義塾大学出版会／2860円（2025年6月）

✂ 慶應義塾この一冊

『メディアとしての福沢諭吉』

―表象・政治・朝鮮問題』

都倉武之（福澤研究センター教授）著
慶應義塾大学出版会／4950円
（2025年5月）



『字問のすゝめ』をはじめとする著作活動や新聞『時事新報』の創刊など、福沢諭吉は明治の近代化を先導したメディアの発信者だった。本書はそんな福澤自身が「メディア」でもあったと捉える意欲的な著作。福澤にとつての文明開化を「交通」というキーワードで提示。福澤の服装や執筆名義を取り上げ言説と行動を考察し、さらに国会開設や災害義援金・被災地支援活動から福澤が考えるメディアと国家、国民の関係を読み解く。そしてたびたび議論されてきた「脱亜論」や「朝鮮問題」への関わりが論じられる。